

# 第25回総代会は2月10日

コロナ禍の影響でZOOM(パソコンを使ったオンライン会議)による会議

埼玉県市民ネットワークは2月10日(水)13時から総代会を開催します。新型コロナウイルスの状況を鑑み、1か所に集まらず各自パソコンを使ってオンラインで行うことにしました。

通常の場合と同じく、諸事情で参加できない総代の方は前もって議案をチェックし、賛成・反対を当日までに各ネットの代表にお知らせください。総代会終了後、講演会があります。

講師：本田宏氏(元済生会病院院長)  
演題：「コロナ禍で地域医療は持ちこたえられるか」  
時間：総会終了後14:45～15:30



本田宏氏

●総代会の傍聴と講演会にはどなたでも参加できますので、地域ネットの代表または運営委員から、ZOOMのアドレスを手に入れてお入りください。(1週間前には入手できます。)

## 新型コロナ対策助成金 非営利事業体へも支援を ワーカーズ、生活クラブと県に要望書提出

NPO法人や一般社団法人、法人格のないワーカーズ・コレクティブなどが、コロナ禍での県の中小企業・個人事業主支援金の助成対象から外された問題について、今後は法人格による区別なく支援を求める内容の要望書を11月10日、埼玉ワーカーズ・コレクティブ連合会と生活クラブ生活協同組合、埼玉県市民ネットワークが共同で提出しました。

当日は、県側は橋本雅道副知事が出席。ワーカーズ連合会が、ワーカーズ・コレクティブなどの非営利法人が地域の居場所づくりなどの事業をしている現状について、実際にミシンカフェなどの

写真を見せながら説明をすると、興味深そうに聞いていました。

NPOやワーカーズが展開する非営利事業は不要不急の事業ではなく、地域の人々に必要不可欠な存在であり、営利企業が担いにくい領域でもあります。これらに対し支援策が抜け落ちないように、今後もしっかりと3者で連携し、政策提案していきたいと思っています。



## 埼玉県市民ネットワーク 地域ネット一覧

みんなで力を合わせて市民自治の埼玉をめざします!

生き生き市民ネットワーク鴻巣  
越谷市民ネットワーク  
市民ネットワーク鶴ヶ島  
市民ネットワーク所沢

はにゅう市民ネットワーク  
富士見市民ネットワーク  
ネットワーク三芳  
よしかわ市民ネットワーク

まちネット寄居  
さやま市民ネットワーク準備会  
くまがや市民ネットワーク準備会  
飯能市民ネットワーク準備会

埼玉県市民ネットワーク  
共同代表 辻浩司・岩田京子

〒343-0041  
越谷市千間台西 1-9-13 ヴェルエールメゾン B  
TEL 048-948-3025



# 埼玉県市民ネットワーク通信

いっしょにやる! なんとかある!  
自分発でもくらしー!



2021年1月発行 61号

12月県議会一般質問

## ワーカーズ・コレクティブ拡げる取組み進める 法制化受けて大野知事が意欲的な答弁

埼玉県議会12月定例会では、埼玉県市民ネットワークの辻浩司県議(埼玉民主フォーラム)が一般質問に登壇しました。

質問では、コロナ禍によってこれまでの社会の在り方が大きく変わることを余儀なくされる中で、働き方、暮らし方、子どもたちの居場所のあり方、自然との関り方など多方面にわたり価値観の軸を変えていく必要性を知事や教育長に問いました。

特に、大きな前進が見られたのが、「労働者協同組合を拡げ、多様な人たちが働ける場づくり」についての質問でした。

ワーカーズ・コレクティブなどの協同労働を進める人々の悲願であった「労働者協同組合法」が国会で成立した直後の一般質問でありましたが、大野知事からは、「私自身、国会議員に法制化に取り組んできた」との経緯が述べられ、「労協組合について



の県民説明会の開催」、「組合設立の相談対応」や「庁内横断的な会議体の設置」、「市町村向け研修会の開催」など、意欲的な答弁がありました。

働く人が出資・経営し、適正な分配をすることを原則とする「雇われない働き方」でもある協同労働は、コロナ失業が増える中で新たな仕事おこしとして期待されています。法制化によってどれだけこの働き方が広がるかは地域での展開にかかっているだけに、知事の前向きな発言は希望を抱かせるものでした。

【その他の質問項目】

アフターコロナ社会への知事の姿勢  
脱炭素化社会の実現  
奥山再生によるクマと人の共生  
プレイパークを拡げる  
障害のある子どもの共に学ぶ教育  
児童養護施設等の退所後の住まいの確保 他



一般質問後 知事や傍聴者等と

# 全国交流集会在開催されました



○代理人運動は女性政党をめざしているわけではないと思うので違和感があった。  
という意見があった一方で、  
○全国市民政治ネットワークの活動が世界の女性政党の中で最も長く続いているパイオニアであることを知って、感銘を受けた。勇気もらった。  
○ネットワークは、世界で最も長く続けている女性政党ということで、もっと広げていける可能性を感じた。  
○ネットは、若い人も普通のお母さんなど「しろと」が当選できる仕組みをつくり、政治へのハードルを低くしてきたことに価値があると改めて感じた。

第2部は、コロナ禍の非常に困難な中で、そういう時だからこそ市民とともに活動を勧めた事例が発表されました。以下は参加者の感想です。

○それぞれ発表の内容がよかった。各地でこんな困難な時期に頑張っていたのだなと思った。活発な活動に驚いた。  
○各ネットがいろいろなやり方を自発的に模索していると感じた。  
○調査活動を、行政や議会への提案活動に活かして成果を出していることがすごいと思った。  
○ヒントをたくさんもらった。

なお、今回は埼玉県ネットが実務担当ということで、開会あいさつ、第1部の司会、第2部のコーディネート、その他雑務を担いました。

この集会を活用するために、地域ネットでは参加者を募り、地域ネットごとに1か所に集まって視聴するなど含め、ほぼ全ネットが参加し、みんなで学べたことがよかったと考えます。(埼玉県ネットの参加者 第1部51名、第2部49名)

また、第2部のパネルディスカッションの発表では、「はにゅうネット」の斎藤さんが「新型コロナウイルスによる一斉休校の子どもたちの過ごし方についてのアンケート」の活動発表を行いました。困難な時期に地域の若い母親に寄り添って活動し、その意見を市議会に届けるなど、働きかけが地道でよかったという評価がありました。

11月15日、全国市民政治ネットワーク(以下全国ネットと称する)主催の全国交流集会在、今年度はZOOMで開催しました。

全国ネットでは、2年に1回、北海道から福岡までのネット会員が集まって、市民政治についての講演や、各ネットの活動を学び合い、さらに会員同士が交流するための、全国交流集会在を開催しています。

今年度は埼玉で行うことになり、武蔵嵐山の女性会館を会場と決めて埼玉県ネットが中心となって準備を進めていましたが、コロナ禍で開催ができなくなり、急きょZOOMでの学習会に切り替え、日程も通常2日で行うところを1日での開催に変更して実施しました。

交流集会的ZOOMでの開催は初めてで、担当の埼玉県ネットでは直前まで準備に追われるなど不安を抱えての集会在でしたが、参加者も多く(第1部175名、第2部146名)無事に終了し成果があったと感じます。内容は2部制で行いました。

第1部 講演会  
「世界の女性政党一生成と役割」  
講師:申 榮(しん・きよん)氏  
お茶の水女子大学教授



第2部 パネルディスカッション  
「コロナ禍とローカルパーティーの役割」  
発表:東京・神奈川・千葉・埼玉

第1部は、世界の数ある女性政党について、その歴史と役割、成果などについて詳しくお聞きしました。以下は埼玉県ネットでの参加者からの感想です。

## 地域ネット活動報告

### 越谷市民ネットワーク

いつでも充電!

#### ソーラーパネルで太陽光発電の学習会

「NPO法人足元から地球温暖化を考える市民ネットエドがわ(通称:足温ネット)」を講師に、中古の太陽光発電パネルを使って、災害時などに使用できる移動式自立電源のワークショップを開催しました。

3.11以降、原発のような大容量の一極集中型の電源ではなく、再生可能エネルギーなど分散型・自立型の多様な電源を生み出していくことが求められています。このような講習会を地域でもすすめ、防災拠点づくりやエネルギーの自給自足について市民が考える機運を高めていきたいと思っています。



### 富士見ネット 定例の放射能測定を終えて

今年度、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、集会施設の閉鎖・自粛要請に活動ができず、やむなく休止した。

例年7月に福島の実地で学び、現状の視察もありませんでした。今私たちネットにできること、2回目の放射能測定を11月に実施した。子どもが利用する放課後児童クラブに隣接する汚染土の埋め立て地の線量については継続的に注視し指導員にも伝えている。

現在、コロナによって子ども、若者や高齢の市民までが経済的、社会的に追い詰められている状況にある。この苦境に関係機関の対応はどうか。私たちネットは何ができるのか。個々人がコミュニティ食堂や学習支援教室のスタッフ、フードバンクへの支援など手探りで動いている。

コロナの収束の見えないなか、ネットの活動も変えていかざるを得ないだろう。



### よしかわ市民ネットワーク

コロナに負けず、出来ることを!

会場&ZOOMで『食と農とまちづくり』連続講座を開きました。第1弾でいすみ市の「学校給食に有機米を使い、まち全体で農業のブランド力を高めた」お話。第2・3弾では印鑰智哉氏に「化学肥料や農薬・遺伝子組換え食品と健康被害との関連、それに気づいて有機農産物に移行している欧米の動き、ゲノム編集食品が表示もされずに出回る危険性、種苗法改正により自家採取が制約され、種苗が大企業の利益の為に使われる危険」を学びました。私たちに出来ることは伝えること・声を届けること。YouTubeも始めました!初めての予算要望書提出、議案を読む会、議会報告&まちかど座談会、放射線測定、公園のトイレのチェック等出来ることを続けています。

よしかわ市民ネットワークHP

